

婦人科

(スタッフ)

部長（産科兼任）：井上 貴史
がんセンター婦人科部長（産科兼任）：中村 聡
産科部長（婦人科兼任）：佐藤 昌司
第二産科部長（婦人科兼任）：豊福 一輝
婦人科副部長（産科兼任）：嶺 真一郎
産科副部長（婦人科兼任）：後藤 清美
主任医師（産科兼任）：大川 彦宏
嘱託医（産科兼任）：小山 尚子
：池之上 李都子
：城戸綾子(2017. 4月から)
後期研修医（産科兼任）：城戸綾子(2017. 3月まで)
：田中 久美子

(診療実績)

大分県立病院は大分県地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。当科でも婦人科悪性疾患の治療に重点を置いています。主要な婦人科悪性疾患である子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんに加え、子宮頸がんの前がん病変である子宮頸部異形成の治療も数多く行っています。大分県内の婦人科疾患、婦人科手術を取り扱う施設の減少に伴い、2017年の悪性・良性疾患の症例数は下記の通りで、悪性疾患が増加傾向にあります。悪性・良性手術とも手術までの待ち時間が長くなっています。

子宮筋腫、良性卵巣腫瘍など婦人科良性疾患に関しては、積極的に腹腔鏡手術を取り入れて行っています。腹腔鏡下の子宮筋腫核出術、腹腔鏡補助下子宮全摘術などを行い、入院期間が短く、痛みなども少ない低侵襲手術を可能な限り提供できるよう努力しています。子宮外妊娠や卵巣嚢腫の茎捻転などの救急疾患についても、随時対応しています。

子宮頸部異形成や尖圭コンジローマなどに対して、レーザー治療も行っています。妊娠希望のある患者には優しい治療で、適応を見極めて治療を行っています。

子宮頸がんに対する放射線治療装置が耐用年数を迎え、今後は腔内照射が行えなくなりました。子宮頸がんに対して、根治的放射線治療が必要な患者は大分大学医学部附属病院へ紹介しています。また不妊治療は行っておりません。

(今後の方向性)

大分県における婦人科悪性疾患治療の拠点病院として、今後も質の高い医療を提供していきます。原則として、科学的根拠（ガイドラインなど）に基づいた診療を行います。患者ごとの病状、社会的背景などを十分に考慮して治療方針を決定し、患者に最適な医療を提供します。良性疾患に関しては腹腔鏡手術を積極的に行い、低侵襲で患者にやさしい医療を提供していきます。

2017年婦人科疾患統計

悪性・悪性に準じる疾患（2017年初回治療症例）

1. 子宮頸がんおよび子宮頸部異形成
子宮頸部異形成（上皮内がんを含む）101例
浸潤子宮頸がん 14例
2. 子宮体がんおよび子宮内膜異型増殖症
子宮内膜異型増殖症 1例
子宮体がん 40例
3. 卵巣がん(卵管がん・腹膜がん)および卵巣境界悪性腫瘍
境界悪性腫瘍 7例
卵巣がん・卵管がん・腹膜がん 30例

良性疾患の手術例数

1. 開腹手術
腹式子宮全摘出術 90例
付属器摘出術 25例
子宮筋腫核出術 13例
2. 腹腔鏡手術
腹腔鏡下付属器摘出術 53例
腹腔鏡補助下子宮全摘出術 1例
腹腔鏡下子宮筋腫核出術 2例
異所性妊娠手術（子宮外妊娠手術）3例
3. 腔式手術
子宮脱手術 17例
子宮内膜全面搔把術（流産手術含む）26例
子宮頸部円錐切除術 101例
レーザー蒸散術 23例

(文責：井上貴史)